【事業名】食関連スタートアップ連携を起点として実現する、国民運動「食べきりプロジェクト」	
【事業代表者】株式会社ビビッドガーデン	【共同事業者】株式会社コークッキング、株式会社フーディソン、株式会社ビストロパパ、一般社団法人プラポ倶楽部

目的

消費者が食品ロス削減への貢献を実感し、行動変容を促進するためのモデル構築を行い、より大きな「国民運動」につながる取り組みを実現

概要

食に関連するスタートアップや企業が連携し、消費者が食品ロスの削減に取り組みやすい商品企画や売り場設計、貢献度の見える化などに取り組みます

▪背景にある社会課題

2021年に国・地方脱炭素実現会議が公表した「地域脱炭素ロードマップ」において、「農林水産業や地域の将来を見据えた持続可能な食料システムの構築は、脱炭素に貢献する」 旨が明示された通り、食・一次産業は脱炭素社会の実現において重要な領域です。その中で、重要なテーマである「食品ロスの削減」を実現するためには、消費者の理解を深めるとともに、食品ロスを減らす購買や調理の工夫を取り入れるなど、行動の変容が欠かせません。

▪取り組み内容

本事業では、消費者が食品ロス削減への貢献を実感し、行動変容を促進するため、売り場との連携やポイント制度を活用したインセンティブ設計のモデル構築に取り組みます。例えば、鮮魚を扱う小売店舗と連携し、夜間に発生する刺身の廃棄を抑えるため、鮮魚のラインナップや容量を増やした「食べきり弁当」を販売します。これにより、消費者に魅力的な商品を提供すると同時に、店舗での食品ロス削減を図る企画を展開します。

また、自宅に届いた野菜などの食材を美味しく食べ切るために、野菜の部位ごとの最適な調理法を提案する料理教室も開催する予定です。さらに、これらの企画に参加する利用者のコミュニティを運営することで、消費者にとってもお得で、食品ロス削減にもつながる情報発信を行っていきます。今後は、この施策に加え、さらなる食品ロス削減に向けた取り組みを検討・実施していく予定です。

本事業では、生産、加工、流通、小売、そして家庭での調理に関連するスタートアップや中小企業と連携することで、スピーディーに効果を検証、およびサービスの改善を進めます。そうして構築した「食べきりプロジェクト」をモデルとし、将来的には大手小売業者や食品メーカーが参画しやすい仕組みを構築し、国民全体に波及する運動へと発展させることを目指します。